

リハビリ通信

ミシンを使って“作りたい”を叶える ～ミシンスイッチの活用～

寒い中にも早春の兆しが見える今日この頃、もうすぐ春がやってきますね。

今回は、長期入所の方々にさまざまな活動を実施している入所作業療法部門から、スイッチを利用してミシンを使う創作活動についてご紹介します。

入所中のSさんには、大好きなキャラクターがあります。そのキャラクターに囲まれていると幸せを感じ元気が出るので、キャラクターがついたミシンでの作品作りを、とても楽しみにされています。

作業療法士（以下 OT）は、利用者の方にとって意図で一番動きやすい身体はどこなのか、どのような方法が無理なくミシンを操作できるのか、などについて検討します。手とは限らず、足、首、あるいは眉毛の動きで、スイッチを操作される方もいらっしゃいます。またスイッチには、ボタン式、接触式、空気圧式、筋肉の動きに反応するタイプなど、たくさんの種類があります。OT はその中から最適なスイッチを選択し、利用者が使いやすい場所に準備します。このスイッチと市販のミシンをつないでいるのが「ミシンスイッチボックス（写真）」という特別な機器です。さまざまなスイッチは、このボックスを通すことで、ミシンを動かせるようになります。



Sさんも、お気に入りのキャラクター素材をご家族に用意してもらい、ご家族とお揃いの作品を作ってプレゼントするなどして、離れて暮らすご家族とのつながりや、想いを互いに共有することができました。今でもSさんやご家族にとって大切な思い出になっています。

私たち OT は、利用者の想いを受け止めながら、今できること、やってみたいこと、新しい挑戦などを、さまざまな工夫を通して実現するお手伝いをしています。

（リハビリテーション科 作業療法士 牛尾）